

- 【表紙】
- 【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書
- 【提出先】 関東財務局長 殿
- 【提出日】 平成29年12月4日提出
- 【発行者名】 大和証券投資信託委託株式会社
- 【代表者の役職氏名】 取締役社長 岩本 信之
- 【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
- 【事務連絡者氏名】 高橋 慎
連絡場所 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
- 【電話番号】 03-5555-3431
- 【届出の対象とした募集内
国投資信託受益証券に係る
ファンドの名称】 ダイワ円債セレクト 日本国債コース
ダイワ円債セレクト 超長期国債コース
ダイワ円債セレクト超長期国債&住宅金融支援機構
債コース
ダイワ円債セレクト マネーコース
(総称を「ダイワ円債セレクト」とします。)
- 【届出の対象とした募集内
国投資信託受益証券の金
額】 (1)当初自己設定(平成29年3月1日)
「ダイワ円債セレクト 日本国債コース」、「ダイ
ワ円債セレクト 超長期国債コース」、「ダイワ円
債セレクト超長期国債&住宅金融支援機構債コー
ス」について2,000万円、「ダイワ円債セレクト マ
ネーコース」について100万円とし、合計で6,100万
円とします。
(2)継続申込期間(平成29年3月1日から平成30年6
月5日まで)
各ファンドについて10兆円を上限とし、合計で40兆
円を上限とします。
- 【縦覧に供する場所】 該当ありません。

．【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成29年2月13日付で提出した有価証券届出書（以下「原有価証券届出書」）の記載事項を、有価証券報告書の提出に伴い新たな内容に改めるため、本訂正届出書を提出致します。

．【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部__は訂正部分を示し、<更新後>の記載事項は原有価証券届出書の更新後の内容を示します。

第二部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(3) 【ファンドの仕組み】

<更新後>

<略>

<委託会社の概況（平成29年9月末日現在）>

<略>

2 【投資方針】

(3) 【運用体制】

<更新後>

<略>

上記の運用体制は平成29年9月末日現在のものであり、変更となる場合があります。

<略>

3 【投資リスク】

<更新後>

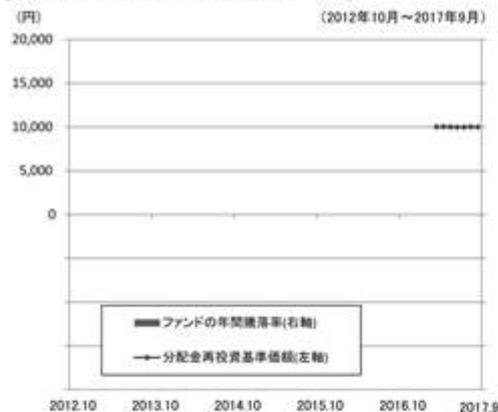
<略>

参考情報

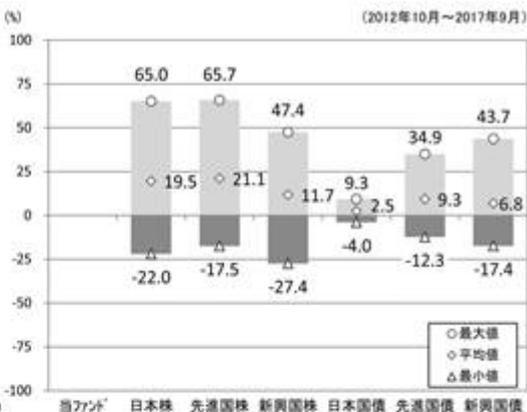
- 下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。右のグラフは過去5年間における年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。また左のグラフはファンドの過去5年間における年間騰落率の推移を表示しています。

ファンドの年間騰落率と分配金再投資基準価額の推移

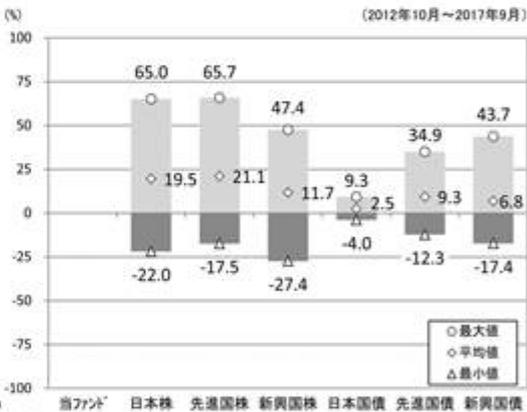
[ダイワ円債セレクト 日本国債コース]



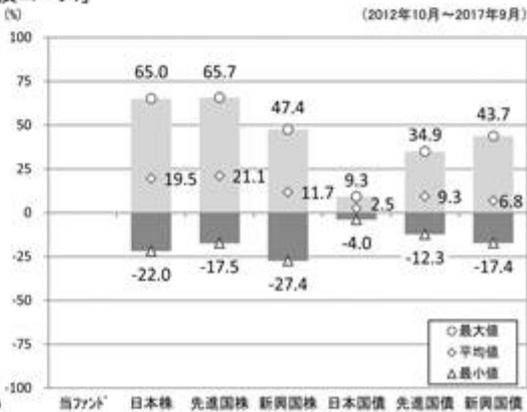
他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



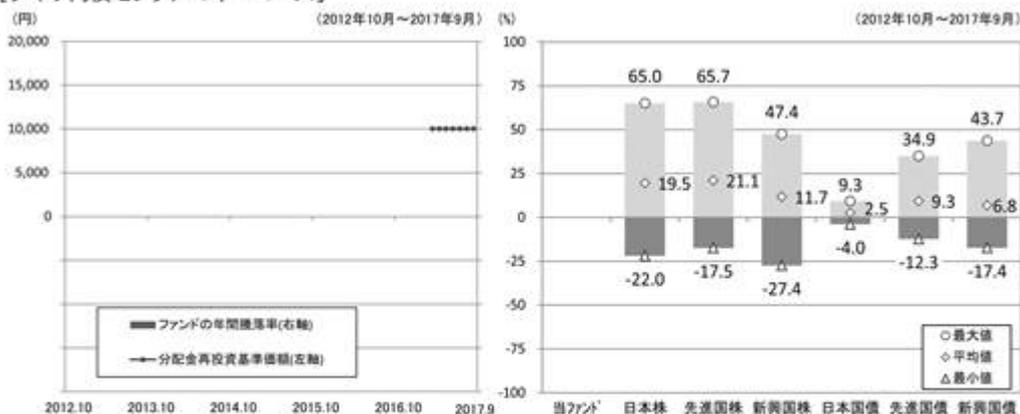
[ダイワ円債セレクト 超長期国債コース]



[ダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コース]



[ダイワ円債セレクト マネーコース]



※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株：東証株価指数(TOPIX) (配当込み)
 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)
 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
 日本国債：NOMURA-BPI国債
 先進国債：シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 新興国債：JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド(円ベース)

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCが開発したインデックスです。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は同社に帰属します。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

4 【手数料等及び税金】

(5) 【課税上の取扱い】

< 更新後 >

< 略 >

() 上記は、平成29年9月末現在のもので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

< 略 >

5 【運用状況】

原有価証券届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」を次の内容に訂正・更新します。

<訂正後>

【ダイワ円債セレクト 日本国債コース】

(1) 【投資状況】（平成29年9月29日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	440,381,722	99.90
内 日本	440,381,722	99.90
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	438,422	0.10
純資産総額	440,820,144	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成29年9月29日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	日本国債0-10マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	440,778,423	1.0022 441,749,079	0.9991 440,381,722	99.90

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
親投資信託受益証券	99.90%
合計	99.90%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
平成29年3月末日	631,971,706	-	0.9993	-
4月末日	480,346,466	-	1.0014	-
5月末日	479,279,016	-	0.9993	-
6月末日	478,263,672	-	0.9968	-
7月末日	437,370,528	-	0.9968	-
8月末日	411,852,903	-	1.0001	-
第1計算期間末 (平成29年9月11日)	423,128,334	423,128,334	1.0007	1.0007
9月末日	440,820,144	-	0.9974	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1計算期間	0.0000

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	0.1

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1計算期間	913,009,593	510,187,390

(注) 当初設定数量は20,000,000口です。

(参考) マザーファンド

日本国債0-10マザーファンド

(1) 投資状況 (平成29年9月29日現在)

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
国債証券	426,700,605	96.89
内 日本	426,700,605	96.89
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	13,684,614	3.11
純資産総額	440,385,219	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産 (平成29年9月29日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
1	341 10年国債	日本	国債証券	42,800,000	103.11 44,131,520	102.46 43,854,592	0.300000 2025/12/20	9.96
2	108 5年国債	日本	国債証券	43,800,000	100.06 43,829,136	100.05 43,821,900	0.100000 2017/12/20	9.95
3	327 10年国債	日本	国債証券	41,700,000	104.95 43,766,157	104.55 43,598,184	0.800000 2022/12/20	9.90
4	332 10年国債	日本	国債証券	41,700,000	104.57 43,606,300	104.08 43,402,611	0.600000 2023/12/20	9.86
5	130 5年国債	日本	国債証券	41,800,000	101.05 42,239,956	100.80 42,135,654	0.100000 2021/12/20	9.57
6	126 5年国債	日本	国債証券	41,800,000	100.82 42,143,178	100.64 42,069,192	0.100000 2020/12/20	9.55
7	345 10年国債	日本	国債証券	41,800,000	101.25 42,325,150	100.64 42,068,774	0.100000 2026/12/20	9.55
8	122 5年国債	日本	国債証券	41,800,000	100.60 42,052,054	100.48 42,003,984	0.100000 2019/12/20	9.54
9	116 5年国債	日本	国債証券	41,800,000	100.46 41,993,534	100.41 41,972,634	0.200000 2018/12/20	9.53
10	337 10年国債	日本	国債証券	40,800,000	103.00 42,025,632	102.38 41,773,080	0.300000 2024/12/20	9.49

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
国債証券	96.89%
合計	96.89%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

【ダイワ円債セレクト 超長期国債コース】

(1) 【投資状況】（平成29年9月29日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	4,384,593,319	99.90

	内 日本	4,384,593,319	99.90
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		4,355,203	0.10
純資産総額		4,388,948,522	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成29年9月29日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	超長期国債18-20マザーファンド	日本	親投資信 託受益証 券	4,270,985,115	1.0328 4,411,121,935	1.0266 4,384,593,319	99.90

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
親投資信託受益証券	99.90%
合計	99.90%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
平成29年3月末日	962,113,052	-	1.0030	-
4月末日	1,369,323,099	-	1.0172	-
5月末日	1,933,216,438	-	1.0145	-
6月末日	3,026,123,846	-	1.0134	-
7月末日	4,019,581,440	-	1.0147	-
8月末日	4,407,358,468	-	1.0237	-
第1計算期間末 (平成29年9月11日)	4,246,659,720	4,252,879,640	1.0241	1.0256
9月末日	4,388,948,522	-	1.0178	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1計算期間	0.0015

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	2.6

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1計算期間	5,139,343,460	1,012,729,591

(注) 当初設定数量は20,000,000口です。

(参考) マザーファンド

超長期国債18-20マザーファンド

(1) 投資状況(平成29年9月29日現在)

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
国債証券	4,597,751,229	98.69
内 日本	4,597,751,229	98.69
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	60,996,413	1.31
純資産総額	4,658,747,642	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産(平成29年9月29日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
1	155 20年国債	日本	国債証券	2,111,100,000	109.73 2,316,547,117	108.98 2,300,740,113	1.000000 2035/12/20	49.39
2	159 20年国債	日本	国債証券	2,271,300,000	101.74 2,310,963,641	101.13 2,297,011,116	0.600000 2036/12/20	49.31

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ. 投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
国債証券	98.69%
合計	98.69%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ. 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

【ダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コース】

(1) 【投資状況】（平成29年9月29日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	548,084,590	99.90
内 日本	548,084,590	99.90
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	545,615	0.10
純資産総額	548,630,205	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成29年9月29日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	超長期国債18-20マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	267,152,696	1.0317 275,626,238	1.0266 274,258,957	49.99
2	住宅金融支援機構債マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	272,003,212	1.0097 274,667,974	1.0067 273,825,633	49.91

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
親投資信託受益証券	99.90%
合計	99.90%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
平成29年3月末日	460,356,873	-	1.0051	-
4月末日	400,477,113	-	1.0144	-
5月末日	375,436,280	-	1.0130	-
6月末日	202,388,664	-	1.0116	-
7月末日	214,119,215	-	1.0131	-
8月末日	485,626,680	-	1.0203	-
第1計算期間末 (平成29年9月11日)	496,603,071	497,333,352	1.0200	1.0215
9月末日	548,630,205	-	1.0146	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1計算期間	0.0015

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	2.2

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1計算期間	845,775,834	378,921,525

(注) 当初設定数量は20,000,000口です。

(参考) マザーファンド

超長期国債18-20マザーファンド

前記「ダイワ円債セレクト 超長期国債コース」の記載と同じ。

住宅金融支援機構債マザーファンド

(1) 投資状況 (平成29年9月29日現在)

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
---------	-------	---------

特殊債券		6,162,589,048	98.97
	内 日本	6,162,589,048	98.97
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		63,992,792	1.03
純資産総額		6,226,581,840	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産 (平成29年9月29日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ. 主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
1	113 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	1,541,328,000	100.33 1,546,568,515	99.92 1,540,249,070	0.370000 2051/10/10	24.74
2	108 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	1,121,748,000	100.08 1,122,757,572	99.68 1,118,270,580	0.340000 2051/05/10	17.96
3	107 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	932,270,000	101.03 941,965,602	100.62 938,143,300	0.480000 2051/04/10	15.07
4	106 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	370,136,000	101.47 375,614,012	101.06 374,096,452	0.540000 2051/03/10	6.01
5	100 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	343,676,000	103.62 356,151,436	103.22 354,776,732	0.840000 2050/09/10	5.70
6	115 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	290,874,000	100.67 292,851,943	100.25 291,630,272	0.410000 2051/12/10	4.68
7	117 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	195,386,000	101.00 197,339,860	100.56 196,499,700	0.460000 2052/02/10	3.16
8	112 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	192,412,000	100.03 192,488,964	99.63 191,719,316	0.330000 2051/09/10	3.08
9	105 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	183,306,000	103.28 189,336,766	102.86 188,566,882	0.790000 2051/02/10	3.03
10	103 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	178,962,000	103.76 185,708,866	103.35 184,975,122	0.860000 2050/12/10	2.97
11	98 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	171,744,000	104.03 178,682,457	103.62 177,978,307	0.900000 2050/07/10	2.86
12	122 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	99,400,000	100.73 100,125,620	100.28 99,678,320	0.440000 2052/07/10	1.60
13	118 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	98,081,000	101.07 99,140,274	100.64 98,718,526	0.470000 2052/03/10	1.59
14	109 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	94,626,000	100.28 94,900,415	99.88 94,521,911	0.360000 2051/06/10	1.52
15	99 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	86,484,000	103.90 89,856,876	103.48 89,502,291	0.880000 2050/08/10	1.44
16	95 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	85,537,000	103.43 88,479,472	103.03 88,137,324	0.810000 2050/04/10	1.42
17	97 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	84,759,000	103.55 87,776,420	103.15 87,437,384	0.830000 2050/06/10	1.40
18	39 住宅機構RMBS	日本	特殊債券	45,001,000	106.31 47,845,063	105.96 47,687,559	1.520000 2045/08/10	0.77

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
特殊債券	98.97%
合計	98.97%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

【ダイワ円債セレクト マネーコース】

(1) 【投資状況】（平成29年9月29日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	858,329,713	70.00
内 日本	858,329,713	70.00
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	367,852,915	30.00
純資産総額	1,226,182,628	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（平成29年9月29日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	数 種類 は	株数、口 また 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	日本	親投資信託受益証券	857,472,241	1.0011 858,415,849	1.0010 858,329,713	70.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
親投資信託受益証券	70.00%
合計	70.00%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
平成29年3月末日	999,970	-	1.0000	-
4月末日	690,403,017	-	0.9999	-
5月末日	718,668,115	-	0.9998	-
6月末日	941,005,507	-	0.9998	-
7月末日	893,507,734	-	0.9997	-
8月末日	984,291,726	-	0.9997	-
第1計算期間末 (平成29年9月11日)	1,291,750,633	1,291,750,633	0.9997	0.9997
9月末日	1,226,182,628	-	0.9996	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1計算期間	0.0000

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	0.0

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1計算期間	1,444,843,269	153,685,523

(注) 当初設定数量は1,000,000口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

(1) 投資状況（平成29年9月29日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
---------	-------	---------

コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	13,589,465,110	100.00
純資産総額	13,589,465,110	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産 (平成29年9月29日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ．主要銘柄の明細

該当事項はありません。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

該当事項はありません。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

[次へ](#)

(参考情報) 運用実績

ダイワ円債セレクト 日本国債コース

2017年9月29日現在
基準価額・純資産の推移

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額	9,974円
純資産総額	4.4億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-0.3%
3カ月間	0.1%
6カ月間	-0.2%
1年間	-
3年間	-
5年間	-
設定来	-0.3%



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 0円 設定来分配金合計額: 0円

決算期	第1期 17年9月								
分配金	0円								

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

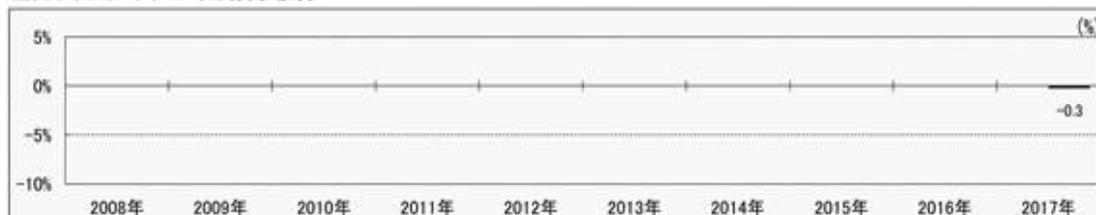
資産別構成	銘柄数	比率	債券ポートフォリオ特性値	組入上位10銘柄	利率(%)	償還日	比率	
国内債券	10	96.8%	直接利回り(%)	0.3 341 10年国債	0.300	2025/12/20	9.9%	
国内債券先物	-	-	最終利回り(%)	-0.1 108 5年国債	0.100	2017/12/20	9.9%	
コール・ローン、その他		3.2%	修正デュレーション	4.7 327 10年国債	0.800	2022/12/20	9.9%	
合計	10	100.0%	残存年数	4.7 332 10年国債	0.600	2023/12/20	9.8%	
債券種別構成			格付別構成	比率	130 5年国債	0.100	2021/12/20	9.6%
国債			AAA	100.0%	126 5年国債	0.100	2020/12/20	9.5%
			AA	-	345 10年国債	0.100	2026/12/20	9.5%
			A	-	122 5年国債	0.100	2019/12/20	9.5%
			BBB	-	116 5年国債	0.200	2018/12/20	9.5%
			BB	-	337 10年国債	0.300	2024/12/20	9.5%
合計		96.8%	合計	100.0%	合計			96.8%

※格付別構成の比率は、債券ポートフォリオに対するものです。

※格付別構成については、R&L、JCR、Moody's、S&P、Fitchの格付けのうち最も高いものを採用し、算出しています。

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2017年は設定日(3月1日)から9月29日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

(参考情報) 運用実績

ダイワ円債セレクト 超長期国債コース

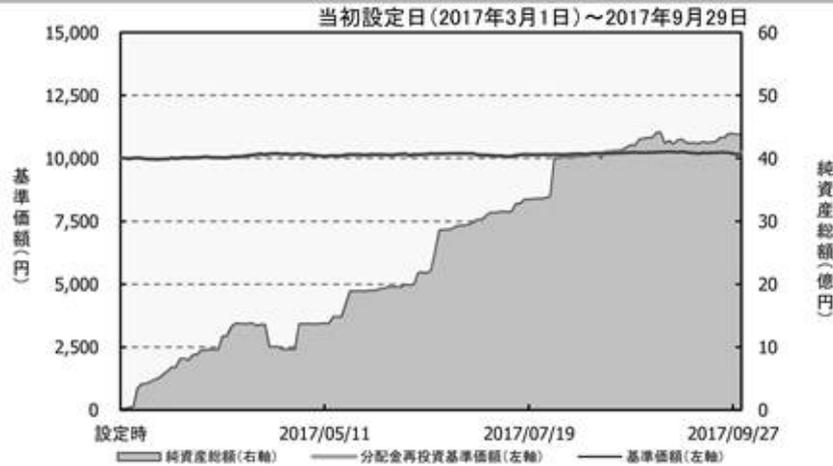
2017年9月29日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	10,178円
純資産総額	43億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-0.4%
3カ月間	0.6%
6カ月間	1.6%
1年間	-
3年間	-
5年間	-
設定来	1.9%



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 15円 設定来分配金合計額: 15円

決算期	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
17年9月										
分配金	15円									

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

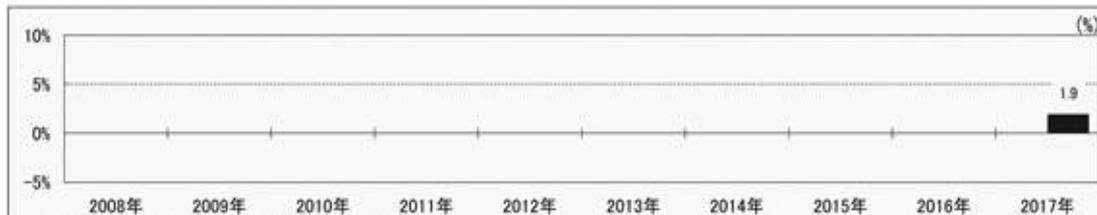
資産別構成	銘柄数	比率	債券ポートフォリオ特性値	組入上位10銘柄	利率(%)	償還日	比率
国内債券	2	98.6%	直接利回り(%)	155 20年国債	1.000	2035/12/20	49.3%
国内債券先物	-	-	最終利回り(%)	159 20年国債	0.600	2036/12/20	49.3%
コール・ローン、その他		1.4%	修正デュレーション				
合計	2	100.0%	残存年数				
債券種別構成		比率	格付別構成				
国債		98.6%	AAA	100.0%			
			AA	-			
			A	-			
			BBB	-			
			BB	-			
合計		98.6%	合計	100.0%	合計		98.6%

※格付別構成の比率は、債券ポートフォリオに対するものです。

※格付別構成については、R&L、JCR、Moody's、S&P、Fitchの格付けのうち最も高いものを採用し、算出しています。

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2017年は設定日(3月1日)から9月29日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

(参考情報) 運用実績

ダイワ円債セレクト 超長期国債 & 住宅金融支援機構債コース

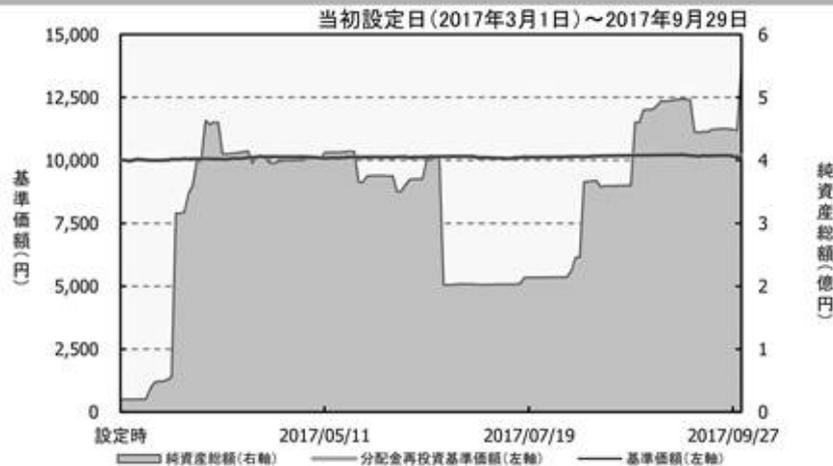
2017年9月29日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	10,146円
純資産総額	5.4億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-0.4%
3カ月間	0.4%
6カ月間	1.1%
1年間	-
3年間	-
5年間	-
設定来	1.6%



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 15円 設定来分配金合計額: 15円

決算期	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
17年9月										
分配金	15円									

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

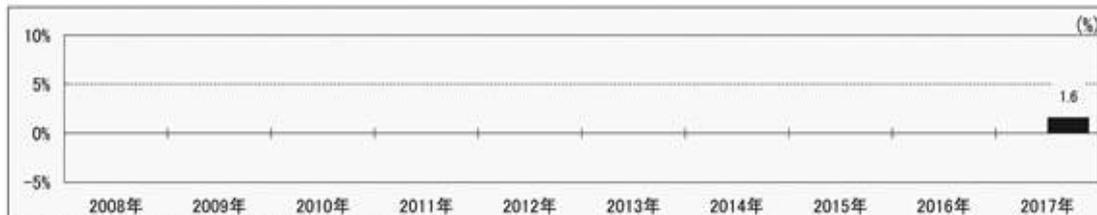
資産別構成	銘柄数	比率	債券ポートフォリオ特性値	組入上位10銘柄	利率(%)	償還日	比率	
国内債券	20	98.7%	直接利回り(%)	155 20年国債	1.000	2035/12/20	24.7%	
国内債券先物	-	-	最終利回り(%)	159 20年国債	0.600	2036/12/20	24.6%	
コール・ローン、その他	-	1.3%	修正デュレーション	113 住宅機構RMBS	0.370	2051/10/10	12.3%	
合計	20	100.0%		108 住宅機構RMBS	0.340	2051/05/10	9.0%	
債券種別構成		比率	格付別構成	比率	107 住宅機構RMBS	0.480	2051/04/10	7.5%
ABS・MBS等		49.4%	AAA	100.0%	106 住宅機構RMBS	0.540	2051/03/10	3.0%
国債		49.3%	AA	-	100 住宅機構RMBS	0.840	2050/09/10	2.8%
			A	-	115 住宅機構RMBS	0.410	2051/12/10	2.3%
			BBB	-	117 住宅機構RMBS	0.460	2052/02/10	1.6%
			BB	-	112 住宅機構RMBS	0.330	2051/09/10	1.5%
合計		98.7%	合計	100.0%	合計		89.5%	

※格付別構成の比率は、債券ポートフォリオに対するものです。

※格付別構成については、R&L、JCR、Moody's、S&P、Fitchの格付けのうち最も高いものを採用し、算出しています。

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2017年は設定日(3月1日)から9月29日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

(参考情報) 運用実績

ダイワ円債セレクト マネーコース

2017年9月29日現在

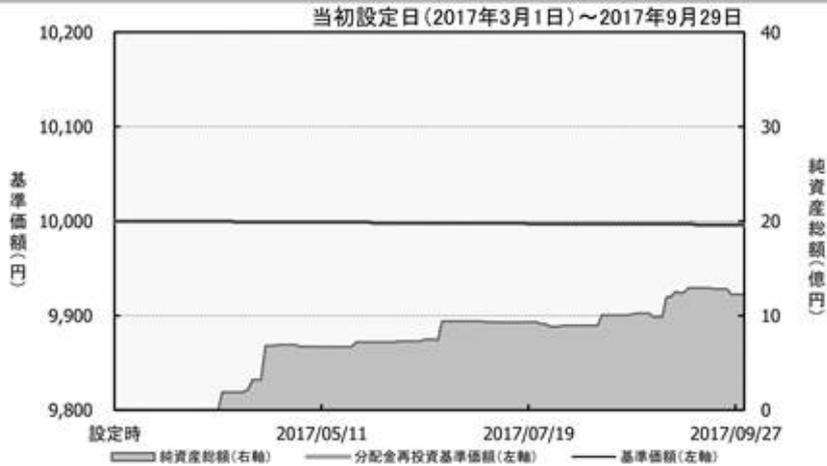
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	9,996円
純資産総額	12億円

基準価額の騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.01%
3カ月間	-0.02%
6カ月間	-0.04%
1年間	-
3年間	-
5年間	-
設定来	-0.04%



※上記の「基準価額の騰落率」とは、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

決算期	第1期 17年9月	直近1年間分配金合計額: 0円	設定来分配金合計額: 0円
分配金	0円		

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

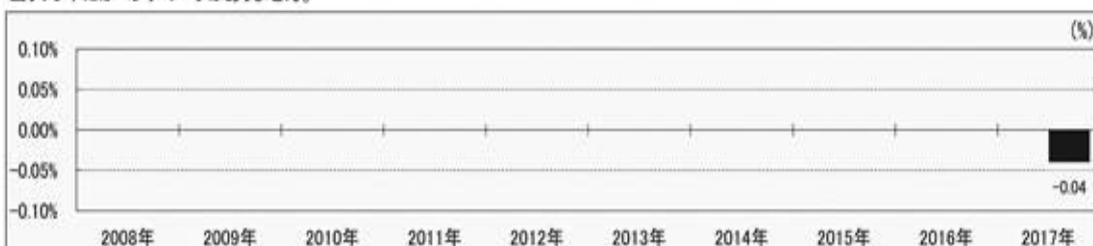
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成	銘柄数	比率	組入上位10銘柄	償還日	比率
コール・ローン、その他		100.0%			
合計		100.0%			
債券種別構成		比率			
合計			合計		

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。
 ・2017年は設定日(3月1日)から9月29日までの騰落率を表しています。

ダイワ円債セレクト 日本国債コース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成29年3月1日から平成29年9月11日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 【財務諸表】

【ダイワ円債セレクト 日本国債コース】

(1) 【貸借対照表】

	第1期 平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		878,387
親投資信託受益証券		422,711,454
流動資産合計		423,589,841
資産合計		423,589,841
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬		52,715
未払委託者報酬		395,716
その他未払費用		13,076
流動負債合計		461,507
負債合計		461,507
純資産の部		
元本等		
元本	1	422,822,203
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		306,131
（分配準備積立金）		457,823
元本等合計		423,128,334
純資産合計		423,128,334
負債純資産合計		423,589,841

(2) 【損益及び剰余金計算書】

	第1期	
	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日	
	金額（円）	
営業収益		
有価証券売買等損益		547,872
営業収益合計		547,872
営業費用		
支払利息		315
受託者報酬		52,715
委託者報酬		395,716
その他費用		13,087
営業費用合計		461,833
営業利益		86,039
経常利益		86,039
当期純利益		86,039
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		371,784
剰余金増加額又は欠損金減少額		30,608
当期一部解約に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		30,608
剰余金減少額又は欠損金増加額		182,300
当期追加信託に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		182,300
分配金	1	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		306,131

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 計算期間 当ファンドの第1期計算期間は、平成29年3月1日から平成29年9月11日までとなっております。 (2) 計算期間末日 平成29年9月10日が休日のため、当計算期間末日を平成29年9月11日としております。このため、当計算期間は195日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 1 期首元本額	20,000,000円
期中追加設定元本額	913,009,593円
期中一部解約元本額	510,187,390円
2. 計算期間末日における受益権の総数	422,822,203口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1 分配金の計算過程	計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（269,525円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（188,298円）、投資信託約款に規定される収益調整金（130,859円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象額は588,682円（1万口当たり13.92円）であり、分配を行っておりません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第1期 平成29年9月11日現在 当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	738,270
合計	738,270

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第1期 平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第1期 平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額	1.0007円

(1万口当たり純資産額)

(10,007円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	日本国債0-10マザーファンド	421,741,449	422,711,454	
親投資信託受益証券 合計			422,711,454	
合計			422,711,454	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「日本国債0-10マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

[次へ](#)

「日本国債0-10マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		14,731,960
国債証券		407,731,427
未収利息		222,401
前払費用		18,667
流動資産合計		422,704,455
資産合計		422,704,455
負債の部		
流動負債		
流動負債合計		-
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本	1	421,741,449
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		963,006
元本等合計		422,704,455
純資産合計		422,704,455
負債純資産合計		422,704,455

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成29年9月11日現在
1. 1 期首	平成29年3月1日
期首元本額	19,980,000円
期中追加設定元本額	887,992,354円
期中一部解約元本額	486,230,905円
期末元本額の内訳	
ファンド名	

ダイワ円債セレクト 日本国債 コース	421,741,449円
計	421,741,449円
2. 期末日における受益権の総数	421,741,449口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	平成29年9月11日現在	
	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)	
国債証券		357,373
合計		357,373

(注)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間(平成29年3月1日から平成29年9月11日まで)を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0023円 (10,023円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
国債証券	1 0 8 5年国債	39,800,000	39,826,666	
	1 1 6 5年国債	41,800,000	41,993,534	
	1 2 2 5年国債	39,800,000	40,039,994	
	1 2 6 5年国債	39,800,000	40,126,758	
	1 3 0 5年国債	39,800,000	40,218,696	
	3 2 7 10年国債	39,700,000	41,669,517	
	3 3 2 10年国債	39,700,000	41,518,260	
	3 3 7 10年国債	38,800,000	39,965,552	
	3 4 1 10年国債	40,800,000	42,072,960	
	3 4 5 10年国債	39,800,000	40,299,490	
国債証券 合計			407,731,427	
合計			407,731,427	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ダイワ円債セレクト 超長期国債コース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成29年3月1日から平成29年9月11日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 財務諸表

【ダイワ円債セレクト 超長期国債コース】

(1) 【貸借対照表】

	第1期 平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		15,214,734
親投資信託受益証券		4,290,669,881
流動資産合計		4,305,884,615
資産合計		4,305,884,615
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		6,219,920
未払解約金		50,661,402
未払受託者報酬		267,807
未払委託者報酬		2,008,899
その他未払費用		66,867
流動負債合計		59,224,895
負債合計		59,224,895
純資産の部		
元本等		
元本	1	4,146,613,869
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		100,045,851
（分配準備積立金）		45,517,185
元本等合計		4,246,659,720
純資産合計		4,246,659,720
負債純資産合計		4,305,884,615

(2) 【損益及び剰余金計算書】

	第1期	
	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日	
	金額(円)	
営業収益		
有価証券売買等損益		65,475,218
営業収益合計		65,475,218
営業費用		
支払利息		1,952
受託者報酬		267,807
委託者報酬		2,008,899
その他費用		66,890
営業費用合計		2,345,548
営業利益		63,129,670
経常利益		63,129,670
当期純利益		63,129,670
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		11,392,565
剰余金増加額又は欠損金減少額		61,175,705
当期追加信託に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		61,175,705
剰余金減少額又は欠損金増加額		6,647,039
当期一部解約に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		6,647,039
分配金	1	6,219,920
期末剰余金又は期末欠損金()		100,045,851

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 計算期間 当ファンドの第1期計算期間は、平成29年3月1日から平成29年9月11日までとなっております。 (2) 計算期間末日 平成29年9月10日が休日のため、当計算期間末日を平成29年9月11日としております。このため、当計算期間は195日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 1 期首元本額	20,000,000円
期中追加設定元本額	5,139,343,460円
期中一部解約元本額	1,012,729,591円
2. 計算期間末日における受益権の総数	4,146,613,869口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1 分配金の計算過程	計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（8,609,516円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（43,127,589円）、投資信託約款に規定される収益調整金（54,528,666円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象額は106,265,771円（1万口当たり256.27円）であり、うち6,219,920円（1万口当たり15円）を分配金額としております。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第1期 平成29年9月11日現在	
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)	
親投資信託受益証券	54,430,529	
合計	54,430,529	

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第1期 平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第1期 平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額	1.0241円

(1万口当たり純資産額)

(10,241円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	超長期国債18-20マザーファンド	4,154,003,177	4,290,669,881	
親投資信託受益証券 合計			4,290,669,881	
合計			4,290,669,881	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「超長期国債18-20マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

[次へ](#)

「超長期国債18-20マザーファンド」の状況
以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		47,628,253
国債証券		4,437,722,058
未収入金		45,637,490
未収利息		6,208,903
前払費用		1,439,830
流動資産合計		4,538,636,534
資産合計		4,538,636,534
負債の部		
流動負債		
流動負債合計		-
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本	1	4,394,069,635
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		144,566,899
元本等合計		4,538,636,534
純資産合計		4,538,636,534
負債純資産合計		4,538,636,534

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成29年9月11日現在
1. 1 期首	平成29年3月1日
期首元本額	29,970,000円
期中追加設定元本額	5,371,022,393円
期中一部解約元本額	1,006,922,758円
期末元本額の内訳 ファンド名	

ダイワ円債セレクト 超長期国債コース	4,154,003,177円
ダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コース	240,066,458円
計	4,394,069,635円
2. 期末日における受益権の総数	4,394,069,635口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	平成29年9月11日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)
国債証券	51,967,906
合計	51,967,906

(注)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間(平成29年3月1日から平成29年9月11日まで)を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

（1口当たり情報）

		平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）		1.0329円 (10,329円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
国債証券	1 5 5 2 0 年国債	2,021,100,000	2,218,096,617	
	1 5 9 2 0 年国債	2,181,300,000	2,219,625,441	
国債証券 合計			4,437,722,058	
合計			4,437,722,058	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ダイワ円債セレクト 超長期国債 & 住宅金融支援機構債コース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成29年3月1日から平成29年9月11日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 財務諸表

【ダイワ円債セレクト 超長期国債 & 住宅金融支援機構債コース】

(1) 【貸借対照表】

	第1期 平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		1,539,522
親投資信託受益証券		496,119,140
流動資産合計		497,658,662
資産合計		497,658,662
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金		730,281
未払受託者報酬		37,148
未払委託者報酬		278,949
その他未払費用		9,213
流動負債合計		1,055,591
負債合計		1,055,591
純資産の部		
元本等		
元本	1	486,854,309
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		9,748,762
（分配準備積立金）		3,649,261
元本等合計		496,603,071
純資産合計		496,603,071
負債純資産合計		497,658,662

(2) 【損益及び剰余金計算書】

	第1期	
	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日	
	金額(円)	
営業収益		
有価証券売買等損益		7,407,116
営業収益合計		7,407,116
営業費用		
支払利息		118
受託者報酬		37,148
委託者報酬		278,949
その他費用		9,220
営業費用合計		325,435
営業利益		7,081,681
経常利益		7,081,681
当期純利益		7,081,681
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額		2,702,139
剰余金増加額又は欠損金減少額		8,080,311
当期追加信託に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		8,080,311
剰余金減少額又は欠損金増加額		1,980,810
当期一部解約に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		1,980,810
分配金	1	730,281
期末剰余金又は期末欠損金()		9,748,762

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 計算期間 当ファンドの第1期計算期間は、平成29年3月1日から平成29年9月11日までとなっております。 (2) 計算期間末日 平成29年9月10日が休日のため、当計算期間末日を平成29年9月11日としております。このため、当計算期間は195日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 1 期首元本額	20,000,000円
期中追加設定元本額	845,775,834円
期中一部解約元本額	378,921,525円
2. 計算期間末日における受益権の総数	486,854,309口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1 分配金の計算過程	計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（935,704円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（3,443,838円）、投資信託約款に規定される収益調整金（6,099,501円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象額は10,479,043円（1万口当たり215.24円）であり、うち730,281円（1万口当たり15円）を分配金額としております。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第1期 平成29年9月11日現在 当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	4,517,159
合計	4,517,159

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第1期 平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	第1期 平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額	1.0200円

(1万口当たり純資産額)

(10,200円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	住宅金融支援機構債マザーファンド	245,575,949	248,154,496	
	超長期国債18-20マザーファンド	240,066,458	247,964,644	
親投資信託受益証券 合計			496,119,140	
合計			496,119,140	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「超長期国債18-20マザーファンド」受益証券及び「住宅金融支援機構債マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「超長期国債18-20マザーファンド」の状況

前記「ダイワ円債セレクト 超長期国債コース」に記載のとおりであります。

[次へ](#)

「住宅金融支援機構債マザーファンド」の状況
以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		222,691,504
特殊債券		6,187,590,133
未収入金		149,907,707
未収利息		86,074
流動資産合計		6,560,275,418
資産合計		6,560,275,418
負債の部		
流動負債		
未払解約金		2,331,850
流動負債合計		2,331,850
負債合計		2,331,850
純資産の部		
元本等		
元本	1	6,489,635,634
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		68,307,934
元本等合計		6,557,943,568
純資産合計		6,557,943,568
負債純資産合計		6,560,275,418

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>特殊債券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成29年9月11日現在
1. 1 期首	平成29年3月1日
期首元本額	6,433,227,575円
期中追加設定元本額	453,129,650円
期中一部解約元本額	396,721,591円
期末元本額の内訳 ファンド名	

ダイワ住宅金融支援機構債 ファンド - Mr . フラット -	6,244,059,685円
ダイワ円債セレクト 超長期国 債 & 住宅金融支援機構債コー ス	245,575,949円
計	6,489,635,634円
2. 期末日における受益権の総数	6,489,635,634口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	平成29年9月11日現在
	当期間の損益に 含まれた評価差額（円）
特殊債券	53,106,997
合計	53,106,997

(注) 「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から期末日までの期間（平成29年3月11日から平成29年9月11日まで）を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成29年9月11日現在

該当事項はありません。

(1口当たり情報)

	平成29年9月11日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0105円 (10,105円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
特殊債券	3 9 住宅機構 R M B S	45,001,000	47,845,063	
	9 5 住宅機構 R M B S	85,537,000	88,479,472	
	9 7 住宅機構 R M B S	84,759,000	87,776,420	
	9 8 住宅機構 R M B S	171,744,000	178,682,457	
	9 9 住宅機構 R M B S	86,484,000	89,856,876	
	1 0 0 住宅機構 R M B S	343,676,000	356,151,436	
	1 0 3 住宅機構 R M B S	178,962,000	185,708,866	
	1 0 5 住宅機構 R M B S	183,306,000	189,336,766	
	1 0 6 住宅機構 R M B S	370,136,000	375,614,012	
	1 0 7 住宅機構 R M B S	932,270,000	941,965,602	
	1 0 8 住宅機構 R M B S	1,121,748,000	1,122,757,572	
	1 0 9 住宅機構 R M B S	94,626,000	94,900,415	
	1 1 2 住宅機構 R M B S	192,412,000	192,488,964	
	1 1 3 住宅機構 R M B S	1,541,328,000	1,546,568,515	
	1 1 5 住宅機構 R M B S	290,874,000	292,851,943	
	1 1 7 住宅機構 R M B S	195,386,000	197,339,860	
1 1 8 住宅機構 R M B S	98,081,000	99,140,274		
1 2 2 住宅機構 R M B S	99,400,000	100,125,620		
特殊債券 合計			6,187,590,133	
合計			6,187,590,133	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ダイワ円債セレクト マネーコース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間（平成29年3月1日から平成29年9月11日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1 財務諸表

【ダイワ円債セレクト マネーコース】

(1) 【貸借対照表】

	第1期 平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		397,522,786
親投資信託受益証券		904,226,946
流動資産合計		1,301,749,732
資産合計		1,301,749,732
負債の部		
流動負債		
未払解約金		9,997,000
未払委託者報酬		282
その他未払費用		1,817
流動負債合計		9,999,099
負債合計		9,999,099
純資産の部		
元本等		
元本	1	1,292,157,746
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2	407,113
（分配準備積立金）		50,588
元本等合計		1,291,750,633
純資産合計		1,291,750,633
負債純資産合計		1,301,749,732

(2) 【損益及び剰余金計算書】

	第1期	
	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日	
	金額(円)	
営業収益		
有価証券売買等損益		128,588
営業収益合計		128,588
営業費用		
支払利息		70,365
委託者報酬		282
その他費用	1	4,188
営業費用合計		74,835
営業損失()		203,423
経常損失()		203,423
当期純損失()		203,423
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		22,041
剰余金増加額又は欠損金減少額		17,221
当期一部解約に伴う剰余金増加額 又は欠損金減少額		17,221
剰余金減少額又は欠損金増加額		242,952
当期追加信託に伴う剰余金減少額 又は欠損金増加額		242,952
分配金	2	-
期末剰余金又は期末欠損金()		407,113

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1)計算期間 当ファンドの第1期計算期間は、平成29年3月1日から平成29年9月11日までとなっております。 (2)計算期間末日 平成29年9月10日が休日のため、当計算期間末日を平成29年9月11日としております。このため、当計算期間は195日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 1 期首元本額 期中追加設定元本額 期中一部解約元本額	1,000,000円 1,444,843,269円 153,685,523円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,292,157,746口
3. 2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は407,113円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 1 その他費用	主に、金銭信託預入に係る手数料であります。
2. 2 分配金の計算過程	計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（0円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（50,588円）、投資信託約款に規定される収益調整金（0円）及び分配準備積立金（0円）より分配対象額は50,588円（1万口当たり0.39円）であり、分配を行っておりません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、親投資信託受益証券を通じて有価証券に投資しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	第1期 平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	第1期 平成29年9月11日現在 当計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	114,877
合計	114,877

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

第1期 平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期 自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

第1期 平成29年9月11日現在

1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9997円 (9,997円)
---------------------------	---------------------

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	903,233,390	904,226,946	
親投資信託受益証券 合計			904,226,946	
合計			904,226,946	

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、当ファンドの計算期間末日(以下、「期末日」)における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

[次へ](#)

「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成29年9月11日現在	
	金額（円）	
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		14,105,721,868
流動資産合計		14,105,721,868
資産合計		14,105,721,868
負債の部		
流動負債		
流動負債合計		-
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本	1	14,090,882,551
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		14,839,317
元本等合計		14,105,721,868
純資産合計		14,105,721,868
負債純資産合計		14,105,721,868

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券</p> <p>個別法に基づき、時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。</p> <p>なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p>

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成29年9月11日現在
1. 1 期首	平成29年3月1日
期首元本額	10,397,391,340円
期中追加設定元本額	5,015,371,301円
期中一部解約元本額	1,321,880,090円
期末元本額の内訳	
ファンド名	
ダイワ債券コア戦略ファンド （為替ヘッジあり）	999円
ダイワ債券コア戦略ファンド （為替ヘッジなし）	999円

通貨選択型ダイワ米国株主還元株 クワトロプレミアム (毎月分配型)	219,583円
通貨選択型ダイワ米国株主還元株 クワトロプレミアム (年2回決算型)	24,953円
ダイワ米国株主還元株ツイン プレミアム(毎月分配型)	848,389円
ダイワ米国株主還元株ツイン プレミアム(年2回決算型)	66,873円
ダイワ米国株主還元株ファンド	36,730,213円
ダイワDBモメンタム戦略 ファンド(為替ヘッジあり)	6,592,748円
ダイワDBモメンタム戦略 ファンド(為替ヘッジなし)	10,288,683円
ダイワ/NB・米国債券戦略 ファンド 為替ヘッジあり (年1回決算型)	4,995円
ダイワ/NB・米国債券戦略 ファンド 為替ヘッジなし (年1回決算型)	4,995円
世界ハイブリッド証券ファン ド2014-04(為替ヘッジあり/ 限定追加型)	999円
世界ハイブリッド証券ファン ド2014-07(為替ヘッジあり/ 限定追加型)	999円
世界ハイブリッド証券ファン ド2014-10(為替ヘッジあり/ 限定追加型)	999円
世界ハイブリッド証券ファン ド2015-01(為替ヘッジあり/ 限定追加型)	999円
ダイワ・ブラジル・リアル債 (毎月分配型) - スー パー・ハイインカム - 50 コース	49,911円
ダイワ・ブラジル・リアル債 (毎月分配型) - スー パー・ハイインカム - 100 コース	49,911円
ダイワ・オーストラリア高配 当株ファンド・マネー・ポー トフォリオ	33,336,056円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド - シフト11 Ver3 -	858,588,190円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド - シフト11 Ver6 -	3,455,490,881円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド - シフト11 Ver7 -	828,595,357円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド - シフト11 Ver5 -	2,095,808,384円

ダイワ円債セレクト マネー コース	903,233,390円
ダイワ・スイス高配当株ツイ ン (毎月分配型)	2,996,106円
通貨選択型ダイワ世界インカ ム・ハンター(毎月分配型) 為替ヘッジなしコース	5,990,216円
通貨選択型ダイワ世界インカ ム・ハンター(毎月分配型) 日本円コース	1,397,544円
通貨選択型ダイワ世界インカ ム・ハンター(毎月分配型) ブラジル・リアル・コース	3,994,008円
通貨選択型ダイワ世界インカ ム・ハンター(毎月分配型) 通貨セレクト・コース	1,597,623円
ダイワ世界インカム・ハン ター(年2回決算型)為替ヘッ ジあり	40,885円
ダイワ世界インカム・ハン ター(年2回決算型)為替ヘッ ジなし	100,789円
ダイワ/NB・米国債券戦略 ファンド 為替ヘッジあり (毎月分配型)	1,235円
ダイワ/NB・米国債券戦略 ファンド 為替ヘッジなし (毎月分配型)	1,598円
通貨選択型 ダイワ/NB・米 国債券戦略ファンド 日本円 コース(毎月分配型)	1,544円
通貨選択型 ダイワ/NB・米 国債券戦略ファンド 通貨セ レクトコース(毎月分配型)	1,984円
ダイワ新興国ハイインカム・ プラス - インカムチェンジ (積立型) -	1,527,685円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド(限定追加型) - シフト11 -	3,536,610,361円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド(限定追加型) - シフト12 -	1,018,968,411円
ダイワ日本株式インデック ス・ファンド(限定追加型) - シフト13 -	1,287,713,056円
計	14,090,882,551円
2. 期末日における受益権の総数	14,090,882,551口

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成29年3月1日 至 平成29年9月11日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。

2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク(価格変動、金利変動等)、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成29年9月11日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

(有価証券に関する注記)

平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成29年9月11日現在
該当事項はありません。

(1口当たり情報)

平成29年9月11日現在	
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0011円 (10,011円)

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2 【ファンドの現況】

原有価証券届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況 2 ファンドの現況」を次の内容に訂正・更新します。

<訂正後>

ダイワ円債セレクト 日本国債コース

【純資産額計算書】

平成29年9月29日

資産総額	440,860,183円
負債総額	40,039円
純資産総額（ - ）	440,820,144円
発行済数量	441,964,453口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.9974円

(参考) 日本国債0-10マザーファンド

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	440,385,219円
負債総額	0円
純資産総額（ - ）	440,385,219円
発行済数量	440,778,423口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.9991円

ダイワ円債セレクト 超長期国債コース

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	4,389,348,544円
負債総額	400,022円
純資産総額（ - ）	4,388,948,522円
発行済数量	4,312,219,560口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0178円

(参考) 超長期国債18-20マザーファンド

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	4,721,782,142円
------	----------------

負債総額	63,034,500円
純資産総額（ - ）	4,658,747,642円
発行済数量	4,538,137,811口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0266円

ダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コース

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	548,672,408円
負債総額	42,203円
純資産総額（ - ）	548,630,205円
発行済数量	540,758,482口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0146円

(参考) 超長期国債18-20マザーファンド

前記「ダイワ円債セレクト 超長期国債コース」の記載と同じ。

(参考) 住宅金融支援機構債マザーファンド

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	6,226,581,840円
負債総額	0円
純資産総額（ - ）	6,226,581,840円
発行済数量	6,185,138,550口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0067円

ダイワ円債セレクト マネーコース

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	1,226,183,015円
負債総額	387円
純資産総額（ - ）	1,226,182,628円
発行済数量	1,226,666,915口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.9996円

(参考) ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

純資産額計算書

平成29年9月29日

資産総額	13,589,465,110円
負債総額	0円
純資産総額 (-)	13,589,465,110円
発行済数量	13,575,603,904口
1単位当たり純資産額 (/)	1.0010円

第三部 【委託会社等の情報】

第1 【委託会社等の概況】

原有価証券届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 1 委託会社等の概況 および2 事業の内容及び営業の概況」を次の内容に訂正・更新します。

<訂正後>

1 【委託会社等の概況】

a. 資本金の額

平成29年9月末日現在

資本金の額 151億7,427万2,500円

発行可能株式総数 799万9,980株

発行済株式総数 260万8,525株

過去5年間ににおける資本金の額の増減：該当事項はありません。

b. 委託会社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでです。

取締役会は、4名以内の代表取締役を選定し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役、役付執行役員等から構成される経営会議は、経営全般にかかる基本的事項を審議し、決定します。経営会議は、分科会を設置し、専門的な事項についてはその権限を委ねることができます。

投資運用の意思決定機構

投資運用の意思決定機構の概要は、以下のとおりとなっています。

イ. ファンド個別会議

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を経営会議の分科会であるファンド個別会議において審議・決定します。

ロ. 投資環境検討会

運用最高責任者であるCIO (Chief Investment Officer) が議長となり、原則として月1回投資環境検討会を開催し、投資環境について検討します。

ハ. 運用会議

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ. 運用部長・ファンドマネージャー

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

ホ．ファンド評価会議、運用審査会議、リスクマネジメント会議および執行役員会議

・ファンド評価会議

運用実績・運用リスクの状況について、分析・検討を行ない、運用部にフィードバックします。

・運用審査会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用実績の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・執行役員会議

経営会議の分科会として、法令等の遵守状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行なっています。

平成29年9月末日現在、委託会社が運用を行なっている投資信託（親投資信託を除きます。）は次のとおりです。

基本的性格	本数（本）	純資産額の合計額（百万円）
単位型株式投資信託	78	206,158
追加型株式投資信託	707	14,407,986
株式投資信託 合計	785	14,614,143
単位型公社債投資信託	23	121,315
追加型公社債投資信託	14	2,035,351
公社債投資信託 合計	37	2,156,666
総合計	822	16,770,809

3 【委託会社等の経理状況】

原有価証券届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」を次の内容に訂正・更新します。

<訂正後>

- 1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表についての監査を、有限責任 あずさ監査法人により受けております。
- 3．財務諸表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(1) 【貸借対照表】

（単位:百万円）

	前事業年度 （平成28年3月31日）	当事業年度 （平成29年3月31日）
資産の部		
流動資産		
現金・預金	31,715	31,260
有価証券	1,137	110
前払費用	159	190
未収委託者報酬	9,896	10,453
未収収益	87	72
繰延税金資産	468	439
その他	83	34
流動資産計	43,547	42,560
固定資産		
有形固定資産	1	1
建物	243	229
器具備品	18	15
器具備品	224	214
無形固定資産	2,706	2,650
ソフトウェア	2,385	2,323
ソフトウェア仮勘定	321	327
投資その他の資産	14,223	12,353
投資有価証券	7,872	5,920
関係会社株式	5,129	5,129
出資金	123	185

長期差入保証金	1,049	1,050
繰延税金資産	-	31
その他	47	37
固定資産計	17,173	15,234
資産合計	60,720	57,795

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	61	79
未払金	8,789	9,466
未払収益分配金	5	7
未払償還金	63	59
未払手数料	4,330	4,453
その他未払金	2	2
未払費用	4,215	4,077
未払法人税等	1,155	980
未払消費税等	538	223
賞与引当金	937	945
その他	22	3
流動負債計	15,720	15,776
固定負債		
退職給付引当金	2,209	2,318
役員退職慰労引当金	93	151
繰延税金負債	1,410	-
その他	-	7
固定負債計	3,714	2,477
負債合計	19,435	18,254
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,174	15,174
資本剰余金		
資本準備金	11,495	11,495
資本剰余金合計	11,495	11,495
利益剰余金		

利益準備金	374	374
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	13,960	12,231
利益剰余金合計	14,334	12,606
株主資本合計	41,004	39,276
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	280	264
評価・換算差額等合計	280	264
純資産合計	41,284	39,540
負債・純資産合計	60,720	57,795

(2) 【損益計算書】

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	88,850	79,747
その他営業収益	799	727
営業収益計	89,650	80,474
営業費用		
支払手数料	46,165	40,110
広告宣伝費	646	549
調査費	10,116	9,436
調査費	925	904
委託調査費	9,191	8,531
委託計算費	761	793
営業雑経費	1,346	1,375
通信費	249	251
印刷費	515	501
協会費	53	50
諸会費	14	13
その他営業雑経費	513	557
営業費用計	59,036	52,265
一般管理費		
給料	5,797	5,833
役員報酬	354	416
給料・手当	3,850	3,940
賞与	654	531

賞与引当金繰入額	937	945
福利厚生費	837	807
交際費	70	60
旅費交通費	211	178
租税公課	325	531
不動産賃借料	1,258	1,273
退職給付費用	394	463
役員退職慰労引当金繰入額	37	60
固定資産減価償却費	1,110	1,045
諸経費	1,486	1,400
一般管理費計	11,531	11,655
営業利益	19,082	16,554

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	109	92
受取利息	25	12
投資有価証券売却益	115	224
有価証券償還益	0	94
外国税関連費用引当金戻入益	171	-
その他	72	56
営業外収益計	496	481
営業外費用		
投資有価証券売却損	14	24
その他	94	75
営業外費用計	108	100
経常利益	19,471	16,935
特別損失		
MMF等償還関連費用	-	305
特別損失計	-	305
税引前当期純利益	19,471	16,629
法人税、住民税及び事業税	6,215	6,501
法人税等調整額	6	1,405
法人税等合計	6,209	5,096
当期純利益	13,262	11,533

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益	利益剰余金	
				剰余金		
繰越利益	剰余金					
当期首残高	15,174	11,495	374	14,126	14,501	41,171
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	13,428	13,428	13,428
当期純利益	-	-	-	13,262	13,262	13,262
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	166	166	166
当期末残高	15,174	11,495	374	13,960	14,334	41,004

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	702	702	41,873
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	13,428
当期純利益	-	-	13,262
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	422	422	422
当期変動額合計	422	422	589
当期末残高	280	280	41,284

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	13,960	14,334	41,004
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	13,261	13,261	13,261
当期純利益	-	-	-	11,533	11,533	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	1,728	1,728	1,728
当期末残高	15,174	11,495	374	12,231	12,606	39,276

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	280	280	41,284
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	13,261
当期純利益	-	-	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	15	15	15
当期変動額合計	15	15	1,743
当期末残高	264	264	39,540

注記事項

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年間)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて各事業年度毎に各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

5. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「有価証券償還益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の財務諸表において、「営業外収益」の「その他」に表示していた73百万円は、「有価証券償還益」0百万円、「その他」72百万円として組替えております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する摘要指針(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)」
を当期から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	23百万円	26百万円
器具備品	232百万円	264百万円

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
未払金	4,320百万円	4,877百万円

3 保証債務

前事業年度(平成28年3月31日)

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,749百万円に対して保証を行っております。

当事業年度(平成29年3月31日)

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,685百万円に対して保証を行っております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位:千株)

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の 総額（百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	13,428	5,148	平成27年 3月31日	平成27年 6月24日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	13,262百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	5,084円
基準日	平成28年3月31日
効力発生日	平成28年6月24日

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の 総額（百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	13,261	5,084	平成28年 3月31日	平成28年 6月24日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	11,532百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,421円
基準日	平成29年3月31日
効力発生日	平成29年6月27日

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

（２）金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は余資運用及び事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。株式は上場株式、非上場株式並びに子会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式及び子会社株式は発行体の信用リスクに晒されております。

未払手数料は証券投資信託の販売に係る手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

（３）金融商品に係るリスク管理体制

市場リスクの管理

（ ）為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

（ ）価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

２．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注２）参照のこと）。

前事業年度（平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
（１）現金・預金	31,715	31,715	-
（２）未収委託者報酬	9,896	9,896	-
（３）有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	7,987	7,987	-
資産計	49,599	49,599	-
（１）未払手数料	4,330	4,330	-
（２）その他未払金	4,390	4,390	-
（３）未払費用（*）	3,420	3,420	-
負債計	12,141	12,141	-

(*) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

当事業年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	31,260	31,260	-
(2) 未収委託者報酬	10,453	10,453	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	5,060	5,060	-
資産計	46,774	46,774	-
(1) 未払手数料	4,453	4,453	-
(2) その他未払金	4,946	4,946	-
(3) 未払費用(*)	3,409	3,409	-
負債計	12,809	12,809	-

(*) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金、並びに(2) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、証券投資信託については、基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項(有価証券関係)をご参照下さい。

負 債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金、並びに(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
(1) その他有価証券 非上場株式	1,021	970
(2) 子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	5,129	5,129
(3) 長期差入保証金	1,049	1,050

これらは、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

（注3）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	31,715	-	-	-
未収委託者報酬	9,896	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	1,115	4,570	1,712	141
合計	42,727	4,570	1,712	141

当事業年度（平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	31,260	-	-	-
未収委託者報酬	10,453	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	110	2,876	1,139	110
合計	41,824	2,876	1,139	110

（有価証券関係）

1．子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（平成28年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成29年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2．その他有価証券

前事業年度（平成28年3月31日）

	貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（1）株式	141	55	86
（2）その他 証券投資信託	3,875	3,408	466

小計	4,016	3,463	553
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他			
証券投資信託	3,970	4,119	148
小計	3,970	4,119	148
合計	7,987	7,583	404

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 1,021百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成29年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	122	55	67
(2) その他			
証券投資信託	3,107	2,697	410
小計	3,230	2,752	478
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他			
証券投資信託	1,829	1,926	96
小計	1,829	1,926	96
合計	5,060	4,679	381

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 970百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	3	-	0
(2) その他			
証券投資信託	19,069	115	13
合計	19,072	115	14

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	50	-	1
(2) その他			
証券投資信託	4,371	224	23
合計	4,421	224	24

4. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、証券投資信託について4百万円の減損処理を行っております。

当事業年度において、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付制度（退職一時金制度であります）及び確定拠出制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,072百万円	2,209百万円
勤務費用	222	202
退職給付の支払額	120	122
その他	35	29
退職給付債務の期末残高	2,209	2,318

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,209百万円	2,318百万円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,209	2,318
退職給付引当金	2,209	2,318
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,209	2,318

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
勤務費用	222百万円	202百万円
その他	-	87
確定給付制度に係る退職給付費用	222	289

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度172百万円、当事業年度173百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年 3月31日)	当事業年度 (平成29年 3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	676	709
賞与引当金	225	224
未払事業税	224	169
連結法人間取引(譲渡損)	121	5
出資金評価損	98	98
投資有価証券評価損	95	65
その他	173	185
繰延税金資産小計	1,615	1,458
評価性引当額	347	201
繰延税金資産合計	1,268	1,257
繰延税金負債		
連結法人間取引(譲渡益)	2,086	639
その他有価証券評価差額金	124	146
繰延税金負債合計	2,210	786
繰延税金資産の純額	941	470

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年 3月31日)	当事業年度 (平成29年 3月31日)
--	------------------------	------------------------

法定実効税率 (調整)	33.06%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.77%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.02%	
評価性引当額の増減額	1.29%	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.19%	
その他	0.43%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	31.89%	

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

[関連情報]

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略していません。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略していません。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略していません。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の子会社

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,749	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証 (注)	1,685	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

(イ) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料 (注2)	27,062	未払手数料	3,188
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	593	未払費用	252

同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,028	長期差入保証金	1,027
-------------	------------	--------	-----	--------	---	---------	-------------	-------	---------	-------

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3)ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4)差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金(百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)(注1)	科目	期末残高(百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料(注2)	23,238	未払手数料	3,298
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	768	未払費用	218
同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,036	長期差入保証金	1,028

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3)ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4)差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社大和証券グループ本社(東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
1株当たり純資産額	15,826.85円	1株当たり純資産額	15,158.25円
1株当たり当期純利益	5,084.10円	1株当たり当期純利益	4,421.51円

(注1)潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2)1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益(百万円)	13,262	11,533
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525	2,608,525

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

原有価証券届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 4 利害関係人との取引制限および5 その他」を次の内容に訂正・更新します。

<訂正後>

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行なうこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5 【その他】

a. 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

提出日前1年以内において、定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項に該当する事実はありません。

b. 訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実

訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

第2 【その他の関係法人の概況】

原有価証券届出書の「第三部 委託会社等の情報 第2 その他の関係法人の概況」を次の内容に訂正・更新します。

< 訂正後 >

1 【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称 みずほ信託銀行株式会社

資本金の額 247,369百万円（平成29年3月末日現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 単位：百万円 （平成29年3月 末日現在）	事業の内容
大和証券株式会社	100,000	（注）

（注）金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます

2 【関係業務の概要】

受託会社は、信託契約の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行いません。なお、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。

販売会社は、受益権の募集の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金・償還金・一部解約金の支払いに関する事務等を行いません。

3 【資本関係】

該当事項はありません。

< 再信託受託会社の概要 >

名称：資産管理サービス信託銀行株式会社

資本金の額：50,000百万円（平成29年3月末日現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

第3 【その他】

<更新後>

<略>

(5) 交付目論見書に「大和投資信託からのメッセージ」として、以下の内容を記載することがあります。

大和投資信託からのメッセージ

私どもは、相対的に安定性が高いと考えられるわが国の債券に投資するファンドを提供させていただいております。

<略>

円資産による安定性の高い運用をお考えのお客さまで、このような趣旨にご賛同いただけるお客さまの資産運用、資産形成の一助となれば幸いです。

<略>

独立監査人の監査報告書

平成29年10月13日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ円債セレクト 日本国債コースの平成29年3月1日から平成29年9月11日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ円債セレクト 日本国債コースの平成29年9月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成29年10月13日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ円債セレクト 超長期国債コースの平成29年3月1日から平成29年9月11日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ円債セレクト 超長期国債コースの平成29年9月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成29年10月13日

大和証券投資信託委託株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コースの平成29年3月1日から平成29年9月11日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ円債セレクト 超長期国債&住宅金融支援機構債コースの平成29年9月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成29年10月13日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 貞廣 篤典 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ円債セレクト マネーコースの平成29年3月1日から平成29年9月11日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ円債セレクト マネーコースの平成29年9月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成29年 5月26日

大和証券投資信託委託株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高波 博之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	貞廣 篤典	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	内田 和男	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和証券投資信託委託株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和証券投資信託委託株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。